

令和2年度

学校関係者評価報告書

令和3年6月

宮城県高等看護学校

1 学校関係者評価委員

- (1) 医療福祉業界関係者
佐藤 るみ子（宮城県立がんセンター看護部副部長）
高橋 ひとみ（東北公済病院看護部次長）
- (2) 卒業生代表
鈴木 光子（仙台市医師会看護専門学校） ※委員長
市川 大輔（宮城県立がんセンター）

2 評価対象期間

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

3 実施方法

宮城県高等看護学校の学校評価に関する要綱（令和元年7月1日施行）第5条により、学校関係者評価委員会に意見を求めるところであるが、今回は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況や各委員が医療機関勤務であることを踏まえ、各委員に書面により意見を求め、意見を取りまとめた。

取りまとめにあたっては、職員及び学生アンケート結果を踏まえ実施した「自己点検及び自己評価結果」を各委員に配布し、評価及び意見をいただき、それを取りまとめた。

4 評価項目

- (1) 教育理念・教育目的
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
 - イ 目標の設定等
 - ロ 教育方法・評価等
 - ハ 資格試験
 - ニ 教職員
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生募集と受入
- (8) 法令の遵守

5 評価及び意見

- (1) 教育理念・教育目的
 - 適切である。
 - 描象度が高いので十分理解しているとはいえない領域だと考えるが、自己評価の結果からは概ね良いと考える。
 - 教育理念、教育目標について、学校要覧やウェブ上への掲載を通して幅広く周知が図られている。多様な価値観の尊重や思いやりのある感性の豊かな人間性を育むことは現代の業界から求められるニーズに一致している。
 - 継続した取り組みや改善を望みます。
- (2) 学校運営

- 高等看護学校のホームページを閲覧すると学校生活、イベントに写真はある。しかし、教育活動等に関する情報公開の部分が適切かどうかと問われるとやや不適切と考えられる。(情報不足)
- 教育活動等に関する情報公開については、学生のニーズからホームページのアップがあるとよいのだと思う。
- 業務の効率化は自施設でも、取り組む必要性が高い項目と考える。
- 教育活動等に関する情報公開に関しては、学生の学習の状況などもホームページ上で更新して、外部への情報公開を積極的に行ってほしい。
- 前回での意見や課題についても、継続して(取り組んで)行くことを望む。

(3) 教育活動

- 「目標の設定等」、「教育方法・評価等」、「資格試験」の項目に関しては適切と思われる。「教職員」の項目については、教員確保、研修学会参加等が考えられるが、今後引き続き検討していただきたい。
- 概ね自己評価平均が3.20とあるので適切だと考える。
- 「教職員」の項目に関しては、学会等web開催になっているので参加を工夫できるとよいと考える。
- 学校間でも学習方法など、情報交換を行い工夫できると良いと思います。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨地実習の中止など、学習計画を大幅に変更する状況下であったが、学習内容に遅れが生じないように学習機会を工夫していたと思う。
- 看護師国家試験に向けた指導体制カリキュラムの構成も適切であると評価する。
- 令和2年度での異例と言える状況下での様々な取り組みによる成果を踏まえて、行動していけることを望む。あわせて、教職員の資質向上に関しても取り組みの継続を望む。

(4) 学修成果

- 資格取得率は近隣の養成学校と比べて低い状況である。
- 県内の多くの施設に就職されていることがわかる。また、就職先が多様だと感じた。
- 令和2年度は国家試験の合格率が全国平均を上回り、卒業生全員が内定を得ることができており、資格取得率、就職率の向上が図られている。
- 令和2年度は特に学生自身の様々なメンタル面での影響もあり大変だったと思われるが、支援はより細かく続けて行ってほしい。

(5) 学生支援

- スクールカウンセラーや教員による個別の支援がなされていると思う。
- 卒業生全員が内定を得ることができ、教員が学生の進路や就職に関する支援ができていると思われる。
- より細やかな支援を続けて行ってほしい。

(6) 教育環境

- 施設の老朽化については、閉校することもあり最小限の整備を行うことが適切であると考えられる。
- シミュレーション教育の充実は是非図っていただきたい。

- 設備の改善は難しいものがあると思う。
- 実習においては1グループを専任教員が担当するなど、整っていると思う。
- 設備や施設の老朽化に対する意見もでていますが、学校として学習環境に影響がないように工夫したり、適宜修繕工事を行い、施設基準が満たされるように対応されており、全体として適切と評価する。
- 学生、教職員等との安全最優先で管理して下さい。

(7) 学生募集と受入

- PR活動はされているものの、人数の確保は難しいと思う。
- 情報はインターネットなども活用されているので適当だと考える。
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、オープンスクールが中止になり、令和2年度はPRする機会が大幅に減少したと思う。
- 最終入学生の確保まで活動を続けてほしい。

(8) 法令の遵守

- 自己評価も高いことから適当だと考える。
- 自己評価結果及び外部評価を、ホームページで公表されており、概ね適切と評価できる。
- これまで同様に取り組んで下さい。

6 学校関係者評価委員の意見を踏まえた対応

(1) 教育理念・教育目的

概ね適切との意見をいただいた反面、抽象度が高く理解が難しいとの意見もありました。

今後も、オリエンテーションなどの場を活用し、学校の理念等について学生の理解を深めていきます。また、保護者には、保護者会等の場を利用し理解を深めていきます。さらに、ホームページなど広報媒体を活用し、学校理念等をより分かりやすく伝えるよう、工夫していきます。

(2) 学校運営

ホームページによる情報発信不足を指摘する意見を多くいただきました。

特に御指摘のありました教育活動に関する情報や学生の学習状況などについての情報発信などについては、今後、ホームページを活用した情報発信のあり方について校内で検討を進め、改善に努めていきます。

(3) 教育活動

- 「目標の設定等」、「教育方法・評価等」及び「資格試験」等適切との評価をいただきました。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、臨地実習の中止などにより学習計画を大幅に変更せざるを得ない状況で、学習内容や遅れが生じないように工夫して学習機会を確保した点について評価いただきました。今後も、教育活動の質の向上に努めていきます。
- 教職員の研修や学会等への参加については、御指摘にありましたWeb開催への参加など工夫し、教職員の資質向上に努めていきます。
- 御指摘のありました、学習方法などについての他校との情報交換については、様々

な場をとらえ、積極的に行っていきます。

(4) 学修成果

- 国家試験合格率については、全国平均を上回ったものの、全員合格には至りませんでした。引き続き、学生一人ひとりの実情に合わせたきめ細やかな指導及び支援に努め、全員合格を目指していきます。
- 令和2年度の卒業生は、全員が内定を得ることができました。今後も、学生の進路実現に向け、学生の個々の実情に合わせたきめ細やかな指導及び支援に努めていきます。

(5) 学生支援

学生支援について、引き続き学生個々の状況に合わせた相談・支援を行っていきます。

(6) 教育環境

施設の老朽化による破損箇所については、随時修繕により対応しており、概ね適切との意見をいただきました。

「学生、教職員等との安全最優先で管理」との意見もいただきましたが、閉校までの間、学習環境に影響しないよう施設の適正管理に努めていきます。

(7) 学生募集と受入

令和4年度入学生が最後の募集になりますが、これまでどおり、県内外を問わず、優秀な人材を確保できるよう、准看護学校に入学案内や募集要項を持参するほか、広報等を充実させていきます。

(8) 法令の遵守

今後も、外部評価委員からの意見等も踏まえ随時改善に努めながら適切な学校運営に努めていきます。